

青梅上成木ふれあいの森

活動地域内の植生と特定植物のモニタリング調査記録 IV

1. 実施日 平成27年7月25日

2. 観察ルート 里仁会館～都道202号～常盤林道～大滝～イラクサの道～サエズリの谷～サエズリの道～スマレの道～リンドウ坂～アジサイの道～瀬沢出合い（大滝作業道口）～常盤林道～都道202号～里仁会館

A. 里仁会館～常盤橋（都道202号沿い）

- ・オトギリソウ（弟切草）オトギリソウ科オトギリソウ属の多年草 昔、鷹の傷薬として秘伝にしていた鷹匠が、その秘密を漏らした弟を斬ったという悲しい言い伝えからこの名が付けられたとされる。
- ・アキノタムラソウ（秋の田村草）シソ科アキギリ属の多年草 秋に花が咲くというのでこの名があるが、実際には盛夏の頃にもよく見られる。
- ・ダイコンソウ（大根草）バラ科ダイコンソウ属の多年草 根に近い葉が大根に似ているのでこの名があるが、大根のような太い根はない。
- ・ヘクソカズラ（屁糞葛）アカネ科ヘクソカズラ属の蔓性の多年草 茎や葉を揉むと悪臭がするのでこの名があるが、可愛い花なのにこの名前はあまりにも可哀そう。



オトギリソウ



アキノタムラソウ



ダイコンソウ



ヘクソカズラ

- ・ハグロソウ（葉黒草）キツネノマゴ科ハグロソウ属の多年草 葉が黒っぽい緑色なのでこの名がある。
- ・ジャノヒゲ（蛇の髭）ユリ科ジャノヒゲ属の常緑の多年草 細い葉を蛇や竜に見立ててこの名があり、別名リュウノヒゲ（竜の髭）。秋に丸い瑠璃色の実を付ける。
- ・オニドコロ（鬼野老）ヤマノイモ科ヤマノイモ属の雌雄別株の蔓性の多年草 同じ仲間のヤマノイモは山芋（自然薯）、ムカゴができるがオニドコロにはできない。



ハグロソウ



ジャノヒゲ



雄花—オニドコロ—雌花

- **エビガライチゴ (蝦殻苺)** バラ科キイチゴ属の落葉低木 前回6月の観察では蕾状態だったが、いくつかの実が熟していた。酸味がなくさっぱりした甘味で美味。
- **オオキツネノカミソリ (大狐の剃刀)** ヒガンバナ科ヒガンバナ属の多年草 ヒガンバナの仲間で、キツネノカミソリより花が大きく、雄シベが花びらより長く伸びている。夏に葉が枯れてから花が咲く。
- **ヨウシュヤマゴボウ (洋種山牛蒡)** ヤマゴボウ科ヤマゴボウ属で北米原産の多年草 全草が有毒の外来植物。活動エリア内ではマルミノヤマゴボウに比べ自生数が少ない。
- **ヤマユリ (山百合)** ユリ科ユリ属の球根植物の多年草 山野より人里近くの道端や丘陵の斜面で多く見られるが上成木地区では自生数が少ない。



エビガライチゴの実



オオキツネノカミソリ



ヨウシュヤマゴボウ



ヤマユリ

- **オオバギボウシ (大葉擬宝珠)**、**コバギボウシ (小葉擬宝珠)** ユリ科ギボウシ属の多年草 都道202号沿いで見られるオオバギボウシはほとんどが自生のものと思われるが、民家近くには植栽と思われるものも一部見られる。都道202号沿いで見られるコバギボウシはほとんどが植栽と思われるが、成木川対岸の草地などには庭逃げで繁でいた半自生のものもあると思われる。
- 里仁会館近く成木川対岸に群生状態で咲くシソ科の花が見られ、ニガクサ、あるいはツルニガクサと思われるが、特徴がよく似ているので名前の同定は難しい。
- 都道202号の成木川沿いにはナツズイセン (ヒガンバナ科)、ヒメヒオウギズイセン (アヤメ科)、オオマトヨイグサ (アカバナ科) などの植栽の花が所々で見られる。



オオバギボウシ



コバギボウシ



名前不詳のシソ科の花

B. 常盤橋～大滝 (常盤林道沿い)

- 5月の観察時に成木浄水場の少し先、左手山側の岩場で数株のイワタバコ (イワタバコ) の自生が確認されたが、その後岩肌の乾燥化が進み、またシダ類などの繁茂もひどいためかイワタバコは激減し、今回開花株もまったく見られなかった。

- ・ヤマホトトギス（山杜鵑草）ユリ科ホトトギス属の多年草 同じ仲間のヤマジノホトトギスに比べ、花びらが反り返っている。常盤林道沿いや活動エリア内で見られるのはヤマホトトギスのみ。
- ・バイカツツジ（梅花躑躅）ツツジ科ツツジ属の落葉低木 常盤林道沿いの右手の雑木林内に自生しているのを確認、そろそろ花は終わりで今回花びらだけを撮影。
- ・タマアジサイ（玉紫陽花）ユキノシタ科アジサイ属の落葉低木 ガクアジサイに似た花で、蕾が丸い球状からこの名があり、淡紫色の両性花と白い花弁状の装飾花よりなる。常盤林道沿いばかりでなく、活動エリア内の所々で見られる。



ヤマホトトギス



バイカツツジの花びら



タマアジサイ

- ・ヌスビトハギ（盗人萩）マメ科ヌスビトハギ属の多年草 花後の実が盗人の忍び足の形に似ているのでこの名がある。
- ・イヌトウバナ（犬塔花）シソ科トウバナ属の多年草 塔を連想させる花穂が何段にも重なって咲くのでこの名がある。



ヌスビトハギ



イヌトウバナ

- ・前回6月の観察のとき常盤林道、成木川沿いで見られたオオバアサガラ（エゴノキ科）の花は終わり、花後の房状の実がたくさん垂れ下がっている。
- ・常盤林道沿いの湿潤な草地には前回までの観察で見られたミズホウズキ（ゴマノハグサ科）がまだ所々で咲いている。

C. 大滝～イラクサの道～サエズリの谷

- ・イワタバコ（岩煙草）イワタバコ科イワタバコ属の多年草 イラクサの道入口近くの左右の岩肌や大滝前のイワタバコの生育状態は良好で開花株もたくさん確認され、既に所々で開花しはじめており、今回、イラクサの道入口近くの右手山側の岩肌の一部をイワタバコのモニタリングポイント①とし、株数と開花株（蕾状態も含む）をカウント。 **株数：35、開花株：12**
- ・イワタバコのモニタリングポイント①の少し先、同じ右手山側斜面のツルリンドウ（リンドウ科）は更に蔓を伸ばして順調に生育、今回花芽を確認、夏の終わりから秋にかけての開花が期待される。ツルリンドウのモニタリングポイント①とし、今後も継続的に要観察。

- ・イラクサの道の途中の左手の岩肌に数年前から自生していたイワタバコは年々自生数が減っているが、いくつか開花が見られたので、今回この周辺全域をイワタバコのモニタリングポイント②とし、株数と開花株（蕾状態も含む）をカウント。 **株数：10、開花株：6**
- ・イラクサの道の途中の三角岩のイワタバコは前回6月の観察では生育が悪く自生数も少なかったが、今回の観察では更に環境悪化が進んだせいか自生がまったく確認できなくなってしまった。
- ・マルミノヤマゴボウ（丸実の山牛蒡） ヤマゴボウ科ヤマゴボウ属の多年草 前回蕾状態だったサエズリの谷のマルミノヤマゴボウは開花状態に、夏の終わりから秋にかけて実が赤く熟す。
- ・トチバニンジン（栃葉人参） ウコギ科トチバニンジン属で日本固有種の多年草 サエズリの谷のトチバニンジン2株とも花は終わり、夏の終わりから秋にかけて赤い実が見られるか要観察。
- ・ヒメワラビ（姫蕨） ヒメシダ科ヒメシダ属の夏緑性シダ ワラビに似ているが全体に産毛が多く生えており、サエズリの谷に群生状態で繁茂。



イワタバコ



マルミノヤマゴボウ



トチバニンジンの未熟実



ヒメワラビ

D. サエズリの道～スマレの道～リンドウ坂

- ・サエズリの道からスマレの道へ向かう途中、支沢の出合い付近の左手のイワタバコについても、今回この岩肌全域をイワタバコのモニタリングポイント③とし、株数と開花株（蕾状態も含む）をカウント。 **株数：24、開花株：9**
- ・タニタデ（谷蓼） アカバナ科ミズタマソウ属の多年草 サエズリの道の所々で自生が確認されたが、活動エリア内の所々でもられる。
- ・リョウブ（令法） リョウブ科リョウブ属の落葉高木 リンドウ坂の東京都環境保全看板近くのリョウブに今年は例年より多く花が付いていた。



タニタデ



リョウブ

- ・スマレの道（日向）のセンブリは小さい株のいくつかは生育があまりよくないが、生育が良い大きめの1株に花芽があるのを確認、秋の開花が期待される。
- ・スマレの道（日向）の谷側のエゴノキにはたくさんの丸い実が付いていた。
- ・今回も東京都環境保全看板近く、リンドウ坂のツルリンドウをツルリンドウのモニタリングポイント②とし、自生株数をカウント、前回17株あったが、今回新たに小さな新芽も見つかり、合計28株の自生が

確認された。生育が良い2株には花芽があるのを確認、夏の終わりから秋にかけての開花が期待される。今後も継続的に要観察。

- ・東京都環境保全看板から少し下がった左手の草地のイチヤクソウは前回まで12株の自生が確認されていたが、今回更に1株増えて13株となる。常緑植物なので今後とも継続的に自生数を要確認。

E. アジサイの道～涸沢出合い（大滝作業道入口）

- ・クサアジサイ（草紫陽花）ユキノシタ科アジサイ属の多年草 草本のアジサイで、アジサイの道で多く見られるが常盤林道沿いでも所々で見られる。花はそろそろ終わり。
- ・ギンレイカ（銀鈴花）サクラソウ科オカトラノオ属の多年草 花後の丸い実が銀の鈴のように見えるのでこの名がある。花はそろそろ終わり、花と一緒に小さな丸い実が付きはじめる。
- ・キヌタソウ（砧草）アカネ科ヤエムグラ属の多年草 花後にできる実の形が「砧」に似ているのでこの名がある。アジサイの道で多く見られ、白い小さな花がボツボツ咲きはじめる。
- ・ヒヨドリバナ（鶉花）キク科フジバカマ属の多年草 人里に下りてきたヒヨドリが鳴く頃に花が咲くのでこの名がある。活動エリア内での自生数は少ないが、アジサイの道で1株の自生を確認。



クサアジサイ



ギンレイカの花と実



キヌタソウ



ヒヨドリバナ

- ・活動エリア内の所々で見られるマツカゼソウ（ミカン科）はまだ蕾状態が多いが、アジサイの道ではボツボツ咲きはじめている。
- ・涸沢出合いに多く自生するウバユリ（ユリ科）は葉がそろそろ枯れはじめ、蕾が大きく膨らんできた。

F. 涸沢出合い（大滝作業道入口）～大滝（常盤林道沿い）

- ・涸沢出合いから大滝間の駐車スペース近く、山側岩肌のイワタバコは数年前に比べ自生数は減少気味だが順調に成育しており、たくさんの開花株が確認された。今回ある範囲内をイワタバコのモニタリングポイント④としたが、株数が多すぎるのでこのモニタリングポイントについては開花株（蕾状態も含む）のみをカウントすることに。 **開花株：76**
- ・ハエドクソウ（蠅毒草）ハエドクソウ科ハエドクソウ属の多年草 全草に有毒物質を含んでいるので蠅取り紙など、蠅の駆除に使われたことがある。常盤林道沿いをはじめ活動エリア内の所々で見られる。
- ・ツリフネソウ（釣舟草）ツリフネソウ科ツリフネソウ属の1年草 夏の終わりごろから咲きはじめるが、今回、常盤林道沿いで茎の途中が膨らんだ虫こぶのツリフネソウを見つける。
- ・ハタザオ（旗竿）アブラナ科ハタザオ属の2年草 開花は春だが、今回細い線形の実を見つける。常盤林道沿いで自生を確認。
- ・5月の観察時、涸沢、大滝間の成木川沿いの大きな岩の上に自生しているミツバベンケイソウ（ベンケイソウ科）は蕾を付けはじめている。



ハエドクソウ



虫こぶが付いたツリフネソウ



ハタザオの実

- **ノリウツギ (糊空木)** ユキノシタ科アジサイ属の落葉低木 ウツギの名があるがアジサイの仲間で、樹皮から採った成分を紙漉きのときの糊にしたことからこの名がある。そろそろ花は終わり
- **ボタンヅル (牡丹蔓)** キンポウゲ科センニンソウ属の落葉蔓性の半低木 葉が牡丹に似ているのでこの名がある。そろそろ常盤林道沿いで咲きはじめる。
- **ミツバ (三つ葉)** セリ科ミツバ属の多年草 野菜のミツバの自然の野に自生する種で、常盤林道沿いばかりでなく活動エリア内の所々でも見られる。



ノリウツギ



ボタンヅル



ミツバ

3. 総括

- 今年は梅雨以降急激な気温上昇とこのところの連日の猛暑で植物の生育が良く、例年に比べると開花が早いと思われるものも多く、盛夏のこの時期、夏の植物に変わり秋の植物がそろそろ蕾を付けはじめ、既に花を咲かせているものも所々で見られるようになってきた。
- 大滝近くと東京都環境保全看板近くのツルリンドウは順調に生育しており、いくつかの蕾も確認されたので、夏の終わりから秋にかけての開花と秋から冬にかけて赤い実を付けるのが期待される。
今後とも継続的に要観察。
- スミレの道（日向）のセンブリは小さいいくつかに生育があまりよくないものがあるが、大きめの1株は順調に生育しており、今回、蕾を付けているのが確認されたので秋の開花が期待される。
今後とも継続的に要観察。
- 活動エリア内各所のイワタバコは、湿潤な環境が保たれているところでは順調に成育し、たくさんの花を咲かせているが、中には温暖化や乾燥化による環境変化などで自生数が減少したり、自生がまったく確認できなくなったところもあり、今後とも発芽から開花までの期間は定期的な観察が望まれる。

編集 青梅上成木ふれあいの森 しぜん部